

共に子育てをする仲間に

園長 野中 泉

昨年の年度末、3月の終わりのある朝のことです。ぶどう組の担任みやびちゃん（M保育士）が「のなちゃん（野中園長）、これ見てください」と1冊の日報をうれしそうに見せてくれました。あるお母さんが2ページにもわたって園や担任への思いを書いてくれたそのあたたかな内容があんまりうれしくて（そのお母さんが苦しかった時期も知っているからこそ）ふたりで思わず手を取りあって喜んだのですが、その時にみやびちゃん（M保育士）が言った「ああ、私たちの仕事って、こういうときに報われるなどと思う。昨日までクタクタやったけど保護者のこんな言葉に一番元気もらうわ」という言葉が日報の内容と同じくらい印象に残っています。みやびちゃん（M保育士）のこの言葉は、まさにアトム職員みんなの実感だと思うからです。

アトムの園長になって6年目の春を迎えますが、5歳児を卒園させた後、年度末1日も休まず新クラスと新入园児を迎える準備をするこの怒涛の3月の目の回る忙しさにはちっとも慣れません。でも、一年の終わり、もっと言えば卒園児の家族にとっては5年間、6年間のアトム生活の終わりに親たちが私たちにかけてくれる言葉にまた性懲りもなく「やっぱり、保育園の仕事っていいなあ」と励まされるのも、この時期の常です。

誤解がないように言いたいのですが、感謝の言葉をくださいという意味ではないのです。もちろん「あのときの、あの言葉にめっちゃ救われた」と言われたり、「こんなことに助けられた」と言われることはとてもありがたいことです。時には、自分自身さえも忘れていたような言葉を大事に覚えてくれている人がいるということに励まされるのは間違いがありません。でも、何よりうれしいのは、子育ての楽しさはもちろん苦しいことも共に超えてきたなあとしみじみとお互いを労い合える「共に子育てをする仲間」になれたことに、一番うれしさとやりがいを感じるのです。

4月になり、また26人の新入园児とその家族がアトムの仲間になってくれました。「はじめまして」の人たちに、アトムがどんな保育園か一番伝えられるのは同じアトムの親の言葉だと思い、卒園児の保護者にアトムっ子の4月号にメッセージをお願いするようになって2年目です。今年も8名の保護者がメッセージを寄せてくれました。（おやおやページ10p～12P）

ひとつひとつのメッセージにまた励まされたのはもちろんのことですが、私たちの園が何を大事にしてきたのか、何を大事に受け継いでいくのか、改めていくつもの気づきももらったと感じています。

園のしおりの巻頭に書かれたこの言葉を、本当のことにしていく大事な毎日が、今年もまたはじまります。

『園には多くの子育て応援団がいます。ひとりぼっちで悩まず、保護者同士がお互いを支え合う、子育てなかまになれるように職員はお手伝いします。

子どもたちを育てながら職員も育ちます。保護者もまた成長します。子育てをとおして大人も育ちあえるアトム共同保育園にしましょう』